

秋田県立秋田北 高等学校 中期ビジョン（平成28年度～32年度 5か年計画）

本校が目指す5年後の姿（具体的な目標）

1 学校の現状や課題

本校は明治34年（1901年）に秋田高等女学校として創立され、秋田県内では最も古い女子高校として、長きにわたって県内女子教育を牽引してきた。平成20年度からは男女共学校として、新たな歴史の幕を開き、現在男子178名、女子537名が学んでいる学校である。

3万4千人を超える卒業生は、よき家庭人として地域社会を支えるだけでなく、プロフェッショナルとして多彩な才能を発揮し、県内外あるいは国際的な舞台上で、政治、文化、教育、スポーツ、芸術など様々な分野で活躍している。

女子校時代から明るくのびやかな気風と高い知性、品性、感性を求める伝統を受け継ぎつつ、「新生北高」を目標に掲げ、人間力の育成、キャリア教育の充実、国際理解教育を積極的に推し進めている。伝統ある進学校として、今後も学業、部活動の両面にわたって高いレベルでの活躍が期待されており、卒業生は将来少子高齢化の進む秋田県にあって、地域のリーダーとして中心的な役割を担う人材、グローバル社会をたくましく生き抜く人材となることが求められている。

2 学校を取り巻く将来の状況の予測

平成28年（2016年）第七次秋田県高等学校総合整備計画開始  
（～平成37年度）

※県内の進学の中心的存在となる学校（10校）の中に  
本校を位置付ける。

平成29年（2017年）

平成30年（2018年）

平成31年（2019年）高等学校基礎学力テスト（仮称）開始

平成32年（2020年）大学入学希望者学力評価テスト（仮称）開始  
東京オリンピック・パラリンピック開催

cf. 平成33年（2021年）創立120周年記念式典挙行

中学校卒業予定者の予測（H27.4.1 現在の予測）（数値：人）

| 地区名     | H 27. 3 | H 28. 3 | H 29. 3 | H 30. 3 | H 31. 3 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 秋 田     | 2 8 0 1 | 2 7 9 9 | 2 7 2 0 | 2 7 0 7 | 2 6 0 0 |
| 男鹿潟上南秋  | 7 6 5   | 6 9 4   | 6 9 1   | 6 2 4   | 6 8 6   |
| 由利本荘にかほ | 9 9 7   | 9 1 6   | 8 8 9   | 8 7 5   | 8 6 6   |
| 中央地区合計  | 4 5 6 3 | 4 4 0 9 | 4 3 0 0 | 4 2 0 6 | 4 1 5 2 |

今後、本校への通学地区の生徒数が減少することから、学級減も予想される。また、平成28年に秋田市内に開設された中高一貫教育校の影響も避けがたい。さらに、思考力・判断力・表現力を中心に評価する方向で大学入試改革が行われることから、こうした時代の流れに柔軟に対応することが求められる。

また、第七次秋田県高等学校総合整備計画では、本校が県内の進学校の中心的存在となる学校として位置づけられ、大学進学等へのニーズに対応できる学校として期待されている。このため、それに応えるべく本校の教育水準の一層の向上が求められる。

### 3 目指す方向性や学校像

人 間 力

地域貢献

グローバルな視点

#### 【育てる人材】

- ①心身ともに健康で、生涯にわたって学び続ける意欲を持ち、知性・品性・感性のバランスのとれた常識のある人間を育成する。→真・善・美の追求、体育、道德教育（含む情報モラル）の充実
- ②地域社会との連携を図り、国や地域を愛し、地域のリーダーとして中心となって活躍できる人材を育成する。→開かれた学校、キャリア教育の推進、ボランティアの奨励、問題解決・探究型の教育の充実
- ③外国語教育や国際理解教育を推進し、高い見識と広い視野を持ち、グローバルな視点を持って活躍できる人間を育成する。→英語教育の充実、言語活動の充実、国際交流活動の充実

#### 【育む環境】

生徒の心が「やらされている」から「やってあたりまえ」へと成長できるよう、3年間を通して生徒の主体性、積極性、探究力を伸ばす学習環境を整える。

### 4 5年間を通しての具体的目標と手立て

#### 【目 標】

- (1) 生徒指導
  - ・校内での一日一善の実施
  - ・地域の方々への一日一声あいさつの実施
- (2) 進 路
  - ・現役第一志望合格率8割以上、国公立大学希望達成率6割以上
  - ・難関大学合格者毎年10名以上
  - ・医学部医学科への合格毎年1名以上（地域医療に貢献する医師の確保）
- (3) 部活動
  - ・全国大会出場毎年延べ7（運動部・文化部）以上、全国大会入賞5年間で2以上
  - ・2020年東京オリンピック・パラリンピックで活躍する人材の育成
  - ・2020年東京オリンピック・パラリンピックを支える人材の輩出

#### 【手立て】

#### 常識のある人間の育成

- (1) 規範意識の向上
  - ・情報モラル教室を充実させる。
  - ・登下校指導によるマナーアップを図る。
  - ・地域へのあいさつの励行を呼びかける。

#### 思考力・表現力の養成

- (2) 言語活動の充実
  - ・すべての教科において、言語活動の充実を図り、生徒に自分の言葉できちんと説明することを求める。また、文系教科においてはディスカッション、ディベートなどを積極的に取り入れた授業を展開する。さらに、言語活動の充実を図るための職員研修会を開催し、教師の指導技術を上げる。
- (3) 探究活動の充実
  - ・1・2年次に総合的な学習の時間を活用し、全クラスで2年間を見通した課題研究に取り組み、課題設定能力、問題解決能力、探究力を育成する。

## 進路指導(北高スタイル)の充実

### (4) きめ細かい進路指導の継続

- ・学力の向上・・・朝補習、放課後補習、土曜講座を効果的に行う。
- ・国際理解教育の充実・・・留学生の受入や海外からの高校生との交流を積極的に推進する。
- ・進学サポート体制・・・系統別エキスパート制や難関大サポート制による個別指導を充実する。

### (5) 進路に直結するキャリア教育の充実

- ・職場体験・大学訪問・研究室訪問等、体験的な活動を充実する。
- ・実践的な思考力・判断力・表現力を養成する。(アクティブ・ラーニング)
- ・各教育機関(小学校・中学校・特別支援学校)や同窓会(あげまき会)との連携を図る。
- ・県内外の大学等との連携を図る(大学教員による授業・講演・講座)。
- ・生徒のキャリア形成の支援ができるよう、多様なメディアが活用できるメディアセンターとしての図書館づくりを促進する。

### (6) 数理探究クラスのレベルアップ

- ・レベルアップに向けて全校体制で支援するとともに、数学の基礎力強化のため、低学年次において少人数学習、習熟度学習を実施する。
- ・課題研究に十分な予算措置を講じるとともに、土曜日の課題研究には、専門的な知識を持つ地域の外部講師を積極的に活用し、研究活動の人的・経済的な支援をする。
- ・科学部の活動と課題研究を一貫して行うことができるよう配慮する。

## 特別活動のさらなる充実

### (7) 部活動等の充実

- ・文武両道を奨励する。
- ・運動部の生徒に対する学習支援を行う。
- ・指導者研修会等へ積極的に参加し、効果的・効率的な部活動指導を工夫する。
- ・保護者会や同窓会との連携を図り、活動を十分にサポートできる環境を整える。
- ・専門的な技術指導を必要とする部活動への外部指導者の活用や効率的な体力づくりの観点から栄養学・スポーツ健康学等の見地から助言をいただく外部講師の活用を促進する。
- ・地域ボランティアを奨励する。
- ・生徒会専門委員会の活動を活性化させて運営の適正化を図る。